

吉賀中だより

令和6年5月31日
吉賀町立吉賀中学校
(文責：城市)

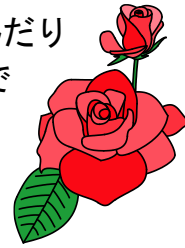
令和6年度 学校教育目標

「**自他を大切にし、共に自らの可能性を広げる生徒の育成**」

めざす生徒像

- 誠実な生徒 **【誠実】**
- 自ら行動できる生徒 **【自主】**
- 新たな表現のできる生徒 **【創造】**
- 学び合い高め合う生徒 **【連帯】**

令和6年度が始まりふた月が過ぎようとしています。少し湿気を感じたり汗ばんだりする日もありますが、爽やかな風が吹き抜ける中、眩しい日差しに目を細める毎日です。学校から見える山々の木々の若葉も伸び伸びと光り輝いているように見えます。二十四節気では、5月の後半から6月の始めにかけては「小満（しょうまん）」。



生き物たちが太陽の光を浴びてすくすくと成長し、あらゆる生命が満ちていく季節です。時候の挨拶には「麦秋の候」が使われる季節になりました。中学校は運動部の大会が真っ盛りの季節でもあります。毎週のように大会や練習試合が組まれ、来たる6月の益田市・鹿足郡ブロック総体に向けて、各部とも練習に熱が入っています。

授業公開日・つなぐ(保護者会)総会・学級懇談会

ありがとうございました

5月29日(水)は、授業公開日でした。(本校では、原則毎月最終水曜日を1時間目から終日全ての授業を公開する授業公開日としています。6月は学校行事の関係で19日(水)としています。)午後の保護者会総会に合わせ、5校時にはたくさんの保護者の皆様の参観があり、生徒も先生もいつもより少し緊張ぎみに見えました。保護者の皆様には、総会後の学級懇談会にも参加いただきました。お忙しい中ありがとうございました。

授業公開日は、保護者の皆様だけでなく地域の皆様にも公開しています。少しの時間でも構いませんので、お時間がありましたらどうぞご来校・ご参観ください。

学校いじめ防止基本方針について

保護者総会資料添付いたしました。本校の学校いじめ防止基本方針についてお話をさせていただきました。全国のいじめによる痛ましい内容が度々報道されていますが、いじめはどの学校や集団にも、どの児童生徒にも起こりうる問題であるととらえています。全ての児童生徒に関係する問題であるととらえ、本校においても学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるように、学校、保護者、地域社会が連携していじめの未然防止や早期発見・早期対応に取り組んでいく必要があると考えています。

保護者・地域の皆様におかれましても、些細な変化や気になることがありましたら、遠慮なくお知らせ下さい。私たち大人は、子どもを育むということにおいて、学校のみならず家庭・地域を含む社会が総がかりで、次代を築く子どもたちの育ちを支えていくという役割と責任があると考えています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。



生徒総会を開催しました

5月17日(金)には、今年度始めの生徒総会を開催しました。生徒総会は、執行部、委員会各委員長、学級委員による事前の打ち合わせや学級生徒会を経て、今年度の活動計画や予算案の審議を行うものです。2・3年生はもとより、1年生からもたくさんの意見や質問があり、一つ一つの質問や意見に会長や各委員長、会計担当が丁寧に回答を返しました。

5月15日は沖縄本土返還の日でした。返還当時、私は小学4年生でしたし私の誕生日の翌日なのでよく覚えています。6月23日沖縄慰霊の日に向けて、沖縄について、平和について、考えてみたいと思います。

～令和6年度生徒会スローガン～

UPDATE our SCHOOL

生徒総会の冒頭では、生徒会長の岩原郡さんから今年度の生徒会スローガンが示されました。そして、「このスローガンの意味は『私たちの学校は進化する』です。そして、『今まで通り』や『現状維持』にとどまらず、挑戦していこうという前向きな気持ちが込められています。変わることを恐れて、現状のままでいるのではなく、一人一人が挑戦する気持ちを忘れず、自分をUPDATEしていきましょう。そして、みんなで吉賀中学校をUPDATEしていきましょう。」と力強く説明が行われました。

とても素敵なスローガンと意気込みですので、今年度の生徒たちの、そして吉賀中学校のUPDATEにどうぞご期待ください。

総会における審議の時間は30分程度の時間でしたが、驚いたのはその審議の最中に質問者や答弁者がお互いに「ありがとうございました」を何度も伝え合っていたことです。その数は、なんと36回(数え漏れがあるかもしれませんがこれ以上かも知れません)。どんな質問や意見であっても、答弁者は質問や意見を述べてくれたことに感謝し、質問者はきちんと回答してくれたことに感謝しての「ありがとうございました」です。今年度初めての生徒総会でしたが、お互いに「ありがとうございました」が言い合える生徒たちにとっても感心し感動をしました。本校学校教育目標「自他を大切にし、共に自らの可能性を広げる生徒の育成」の実現の一端を見せてもらったような気がしてうれしい限りでした。



家勉集会を行いました

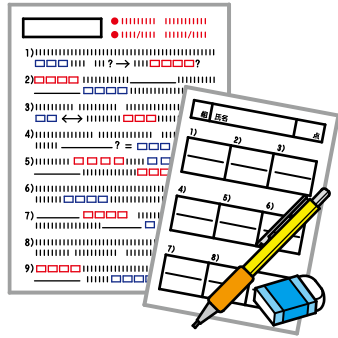
5月9日(木)に、家庭学習習慣の醸成をめざし家庭学習への見通しをもつと共に、生徒一人一人が「自分にとって」よりよい学習方法について考えることをねらいとして、家庭学習の手引きを配り「家勉集会」を行いました。家勉マスターとして、3年生の上田夏希さんと湊谷智弥さんが、家勉ノートの取り組み方や工夫していること、気もちが乗らない時はどうしているかなど、家庭学習における家勉ノートへの取り組み方を説明・紹介もしてくれました。

さっそく当日(5/9)から、家庭学習において家勉ノートへの取組が始まりました。取組の約束は次の通りです。家庭で頑張っている様子を見て、励ましていただければと思います。

- ①毎日、取り組もう
少ない時間でも、毎日続ける習慣をつけよう
- ②決まった時間に取り組もう
家庭学習を自分の生活の中に取り入れよう
- ③学習環境を整えよう
学習に集中できる環境をつくろう



テスト中、失礼します！ 中間テストを再開しました

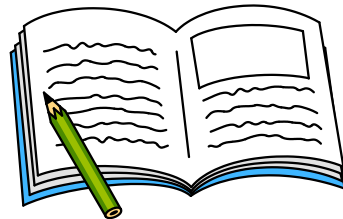


今年度から1学期と2学期の中間テストを再開し、1学期の中間テストは、5月22日(水)と23日(木)の2日間に、国語・社会・数学・理科・英語の5教科で実施しました。テスト勉強期間として、テスト前の5日間を設定し部活動を中止して、家庭学習習慣の醸成とテスト準備に取り組みました。また、テスト前の24日(金)～26日(日)には、七日市公民館、吉賀中体育館(ミーティングルーム)において「よしか塾」も開いていただき、多くの生徒が参加してテスト準備に取り組むことができました。ありがとうございました。

テスト当日のテスト中に各学級を回ってみました。どの学級でもテストに取り組む生徒の真剣な表情が見られ、準備に取り組んだ成果を発揮しようと一生懸命に頑張っている様子でした。

テストはその結果に一喜一憂するものです。勿論、満足のいく点数が取れていると嬉しいものですが、大切なのは間違ったところやできなかったことについて、振り返り今度はできるようにするという、テスト結果から始まる学び直しです。人というのは誰しも、一度やったことを再びやり直すこと(いわゆる復習)よりも、未体験のことや新たなことに会うこと(いわゆる予習)の方が、ワクワク感があるがゆえに好きなものです。そのため、多くの人が復習というやり直しを嫌い避けてしまいます。「勉強しなさい」と言われても、嫌なものは嫌なものなんです。

ところで、「勉強」という字は「勉める」(つとめる)と「強いる」(しいる)の組み合わせです。つまり、「無理をして力を尽くすことを強制する」という意味にもなります。ですので、商売において値引きをすることを「勉強します」と言うのは、お客さんに対して無理をして値引きをするという意味で使われています。値引いてもらう方は嬉しいのですが、自分が無理をするのは誰でも嫌いですよね。(ちなみに中国語では「勉強」は「無理矢理に」という意味になるそうです)



私は学習することを「学び」と捉えています。「学び」とは、それまでできなかったこと・分からなかったこと、知らなかったことを、できること・分かること・知っていることに一つ一つ変えていくことです。「学び」が一つ増えることにより、その一つ分、自分が成長し高まっていくことが実感できるものです。「勉強」から「学び」に。生徒の皆さんには、テストの結果から自分ができることや分かることを一つ一つ増やしていくこと、新たな自分の思考力を増やし高めていく「学び」のワクワク感を是非味わってみて欲しいと思っています。きっと次のテストが楽しみになってきますよ。

自尊心について (少し長いですがご容赦を)

自尊心という言葉は、多くの人が聞いたことがあると思います。心理学用語の self-esteem(セルフ・エスティーム)を訳した言葉で、アメリカの哲学・心理学者ウィリアム・ジェームズが1800年代後半に提唱し、その後アメリカで研究が進んできました。大雑把ですが、1960年代後半にローゼンバークが尺度を開発しアメリカでは自尊心を高める流れができたようですが、日本にこの考え方が入ってきたのはかなり遅れて1990年代のようです。ちなみに、日本の子ども(だけではなく大人もだと思います)は、諸外国と比較すると自尊心が小さい傾向にあるそうです。(私見ですが、日本の「慎ましやかさ」や「わび」、「さび」という文化価値による影響があるのではないかと思います。)

自尊心とは自尊心と言われることもあるようですが、簡単に言うと「自分が自分のことを尊重する感情」を指します。自分はこのままでいいんだという人は自尊心が大きく、逆だと自尊

感情が小さいととらえてもよいです。つまり、自分自身で自分のことをどう思っているかということです。

自尊心が大きければ、必要以上に自分を責めたりネガティブ(否定的)な感情が生まれたりしにくく、マイナスのスパイラルにも陥りにくくなるとされています。そのため、自尊心をどう大きくしたり高めたりすればよいのかという方法が研究され実践されてきました。アメリカでの先行研究や実践を取り入れ、日本では「褒める」「認める」「出番ややりがいを作る」「評価する」「成功体験を積ませる」などの方法により、特に子どもたちの自尊心を高める取り組みが盛んに行われてきました。とりわけ1990年代後半(平成の始まり)頃から、「自信がない」「やる気がない」「不安や孤独を感じる」「どうせ自分なんて」などと言う若者が増えてきたために、全国で一斉に「褒める」「失敗をさせない」という取り組みが進んできた経緯があります。しかし、少し整理して捉えていかなければならないことが2010年代にはっきりしてきました。

自尊心は、どうやら2種類あると考える必要があるということです。このことを私は下図のようなイメージで二重構造としてとらえています。2種類の自尊心の1つめは「社会的自尊心」。そして2つめは「基本的自尊心」です。この2つで自尊心全体だとイメージしています。

「社会的自尊心」とは、「ナンバーワン」の気持ちのことで、一般的には「優越感」や「自信」。他の人に勝ったと思うと大きくなり、負けたとすると小さくなる感情です。すぐに大きくなったり小さくなったりする熱気球のようなイメージです。褒められたり認められたりすれば大きくなり、やる気や自信を生み出す感情です。

一方、「基本的自尊心」は、「オンリーワン」。自分の長所も短所も含めて「自分はこれでいい」と思える気持ちのことで、他者との比較ではなく絶対的で無条件、根源的な心の基盤を支える感情で、すぐには強くはなりません。一度できたら例えつらいことがあっても弱くなりません。まるで和紙を一枚一枚糊で重ねていくようなイメージです。体験や感情を共有する共有体験(共視体験)で育まれ、つらい時や困った時などどんな時にも自分を支えてくれる感情です。

この2種類の自尊心の大小の組み合わせを考えると、大きくは下のような4つのタイプが考えられます。右の2つのタイプは自尊心全体が大きいので心配いりませんが、左下のCタイプは自尊心全体が小さくとても心配な心理状態です。自分自身を傷つけたり不安定になったりする可能性があります。また、見逃されがちなのは左上のAタイプです。自尊心全体がとても大きく見えるので一見安心できそうですが、社会的自尊心は他者との比較ですからつぶれやすいということを考えると、いつ左下のCタイプになるか分かりません。がんばり屋で、でもいつも不安を抱えているケースが多く、周りにそのことを気付かれにくいタイプです。社会的自尊心だけが大きい場合、他者との比較ですから自分の社会的自尊心が小さくならないように、他者を落とす嫌がらせやいじめをすることで、相対的に自分の社会的自尊心を保とうと無意識に行動することもあります。

社会的自尊心を高めるために褒めることや讃えることはとても大切ですが、同時にいつも無条件に愛されている、守られているという絶対的な安心感を味わわせたり深い感情の交流を丁寧にししたりして、基本的自尊心をしっかり育てていくことがとても大切なのです。

